

クラッチアクチュエーター

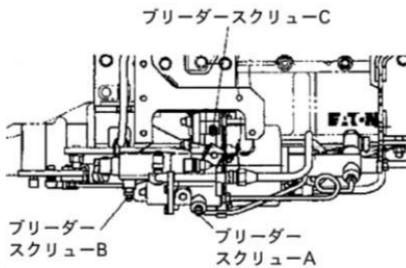
重要

この度は、クラッチアクチュエーターをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
以下の内容につきましては、交換作業着手前に必ずご確認頂きたく、宜しくお願いいたします。

交換作業時のご注意

【エア抜きの手順】

■このクラッチアクチュエーターにはブリーダースクリューが3か所あり、「クラッチペダルを踏んで行う場合」と「エア抜き機を使用する場合」では順番が異なりますのでご注意ください。
・クラッチペダルを踏む場合・・・ A→B→C
・エア抜き機を使用する場合・・・ B→A

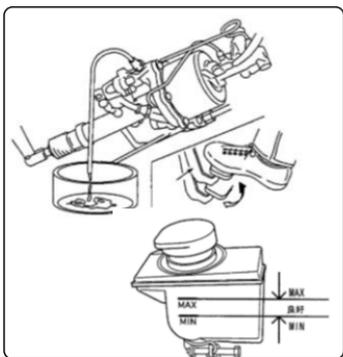


【クラッチ系統のエア抜き】

■クラッチペダルを踏んで行う場合
a.クラッチプースターのブリーダースクリューAのキャップを緩め、エア抜き機を接続する。
b.エア抜き用のビニールチューブをブリーダースクリューB先端に取り付け、端を1/3程度クラッチフルードを入れた透明な容器に入れる。
c.ブリーダースクリューBをゆるめ、クラッチペダルを繰り返し踏み込み、ペダルが重く感じたところでブリーダースクリューBを締め付ける。

→マスターシリンダーにエアが入っている場合は、本手順でエア抜きが出来ない場合があるので、**エア抜き機を使用してエア抜きを行って下さい。**

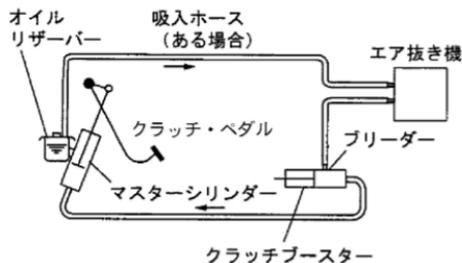
→**エア抜き作業時は車両エア圧は充填しエンジンを停止した状態で行って下さい。**



d.エア抜き用ビニールチューブをブリーダースクリューA先端に取り付け、クラッチペダルを4~5回踏み込んだ後、クラッチペダルを踏み込んだ状態で保持し、ブリーダースクリューAを緩めエアを放出させてクラッチペダルを戻す前にブリーダースクリューAを締め付ける。ブリーダースクリューAから気泡が出てこなくなるまで上記作業を繰り返す。
e.ブリーダースクリューB部にて (d)と同じ作業を行う。
f.ブリーダースクリューB部にて (d)と同じ作業を行う。
g.オイルリザーバーの液量を「MAX」の線まで補給する。
h.クラッチペダルの踏み応え、及び液漏れがないか点検する。

■エア抜き機を使用する場合

a.エア抜き機の補給パイプをクラッチプースターのブリーダースクリューB部に取り付ける。
b.ブリーダースクリューBを少しゆるめエア抜き機を起動させ、ブリーダースクリューBよりクラッチフルードを圧送し、オイルリザーバー側へ気泡を抜く。
c.ブリーダースクリューBを締め付ける。
d.ブリーダースクリューA部にて (b)、(c)と同様の作業を行う。

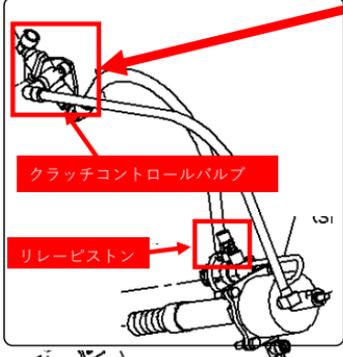


→**エアブリーダは2か所あるのでブリーダースクリューB、Aの順のエア抜きを行う。**

■エア抜き完了の確認

クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、クラッチプースタープッシュロッドストロークが基準値内になることを確認して下さい。(基準値はメーカーの整備マニュアルをご参照下さい。)

【クラッチコントロールバルブ】



クラッチコントロールバルブは

■クラッチアクチュエーターの交換作業を行う際は、クラッチコントロールバルブも同時に点検が必要です。

→エア抜きが完了しない、又は、数か月後エアが混入した等トラブルに繋がる可能性があります。

【リレーピストン】

オイルミストの影響により、カップ・シール類が膨潤し早期故障、エアの混入等トラブルに繋がる可能性があります。

→**エアードライヤー、エアコンプレッサー等のエア関連部品の点検が必要です。**

トラブルシューティング

作業完了後、よくあるトラブル事例を記載致しました。もし、以下のような現象が発生した場合は、お手数ですが、もう一度ご確認の程、宜しくお願い致します。

現象	原因と対処方法
エアが抜けない	エア抜きの手順を再度ご確認ください。
クラッチが切れない	プッシュロッドストロークの調整を再度ご確認ください。